



天明丙午春

學海 鳴海

東都雪中菴の叟のきに

吟の句成不きれりる誦し
一唱三歎乃何まりまれり
子完來の自且余の社中れ
老魄とそれうゝ母あゝ
五つものよあゝはるぬ

其一

蓼太

青柳やたもひのころとむ

よほへかあしきれゆき
學海

あけ野の系に駒あへ
山父

其二

今

春初や万葉のむ風もあゝ

垣ほまゝの蝶の羽さ
竜章

紅圍れ煙あまき家かへ
完來



天明丙午春

蓼太

完來

城路のうらやまの草花
あけ野の系に駒あへ
あまき家かへ

其三

竜章

山父

あまき家かへ
あけ野の系に駒あへ
あまき家かへ

其四

学海

蓼太

あまき家かへ
あけ野の系に駒あへ
あまき家かへ

其五

完來

